釜口水門

初代「釜口水門」昭和11年完成
（最大放流量 200m³/s）

【 釜口水門の歴史 】

諏訪湖には31の河川が流れ込み、流れ出るのは天竜川のみです。このため諏訪湖は昔からはんらんをくりかえしていました。

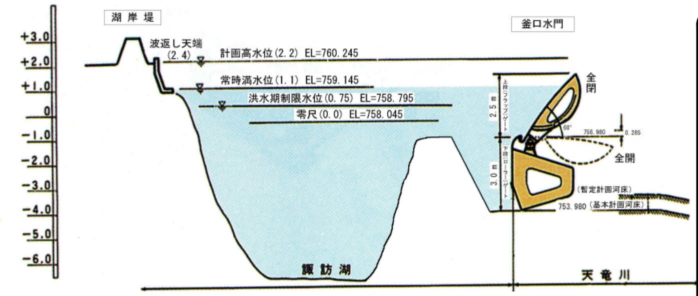
江戸時代から天竜川への出口（**釜口**）を広げる工事がされ、大正時代には釜口から下流約1.5kmの間の掘り下げ工事が行われました。

昭和に入っても諏訪湖のはんらんは続いたため、天竜川をさらに掘り下げると同時に、この掘り下げにより諏訪湖の水位が低下することを防ぐ目的で、昭和7年から初代**「釜口水門」**が建設され、昭和11年に完成しました。しかし、その後も水害は続き、昭和25年、36年に大きな被害がありました。

昭和48年に天竜川水系全体の治水計画が見直され、初代水門の約80m上流に放流能力の大きな新水門を造ることとなり、昭和63年に２代目**「釜口水門」**が完成しました。

現（2代目）「釜口水門」昭和63年完成
（最大放流量 600m³/s）

諏訪湖縦断概念図



※ 現釜口水門はそれまでの湖底を約3m掘り下げて設置されています。

【 釜口水門の役割 】

(1) 洪水調節

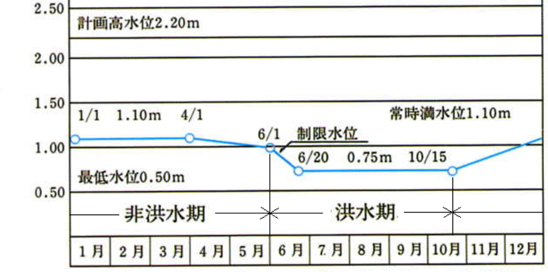
将来（天竜川の護岸整備が完了したら）諏訪湖の計画流入量 1,600m³/sのうち 1,000m³/sの洪水調節（最大放流 600m³/s）を行う。当面、天竜川の改修状況に合わせ最大 430m³/sの放流を行い、湖周辺及び下流の水害を防ぐ。

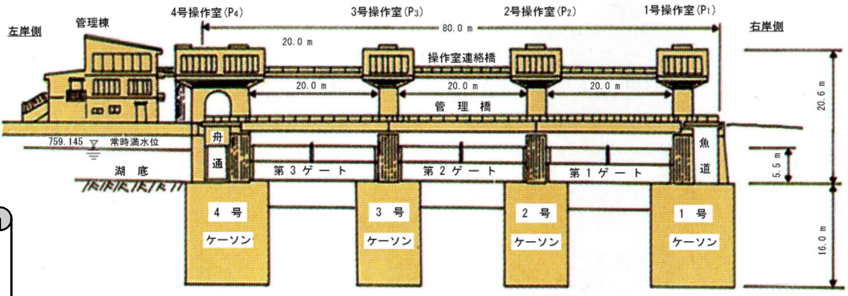
(2) 流水の正常な機能の維持

下流天竜川沿岸の既得用水の補給等を行う。

これらの目的のため、諏訪湖の水位を季節ごとに管理しています。

管理水位図





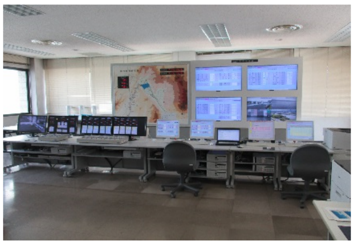
【 釜口水門の施設 】 総事業費 102億円

昭和53年着工～昭和63年7月完成

- 基礎処理　ケーソン4基
- ゲート（上段ﾌﾗｯﾌﾟ式、下段ﾛｰﾗ式）3門
- 舟通し（左岸側） 1基
- 魚道（右岸側）　 1基
- 管理設備
  - 管理棟（RC構造、535.3㎡）
  - ﾃﾚﾒｰﾀ（雨量観測 7局、水位観測 9局）
  - 放流警報装置 ｻｲﾚﾝ･ｽﾋﾟｰｶ 32局（33km）
  - 制御装置　一式

昭和63年着工～平成5年完成

- 周辺整備　河川公園 16,400㎡
- 旧水門撤去



管理棟3階　操作室

空から見た
釜口水門

諏訪湖の概況

湖面標高	759m （参考：長野市 362m、松本市 592m）
湖　面　積	13.3km² 周囲 15.9km
最大深度	7.2m 平均深度 4.7m
貯　水　量	61,904,000m³
滞留時間	39日 （参考：琵琶湖 2,000日、霞ヶ浦 200日）
流入河川	31 （一級河川 15、準用河川 5、普通河川 11）
流域面積	531.2km²
常時満水位	759.145m
第７期 水質目標	COD4.4mg/ℓ 全窒素0.65mg/ℓ 全リン現状水準の維持 透明度1.3m以上 (H30水質 COD4.7mg/ℓ 全窒素0.63mg/ℓ 全リン0.045mg/ℓ 透明度1.0m)

長野県諏訪建設事務所
電話 0266-53-6000（代）
E-mail:suwaken-ijikanri@pref.nagano.lg.jp
〒392-8601 諏訪市上川一丁目1644の10
釜口水門　電話 0266-22-6866
〒394-0044 岡谷市湊1-9-5